

大学併修農業総合科 教育ポリシー

アドミッション・ポリシー

《学校》	《学科》
①食・農・緑のプロフェッショナルを目指す意欲のある人	①幅広い教養を吸収したいという意欲のある人
②選んだ道に自信を持って前に進む強い意志のある人	②授業・実習に積極的に取り組める人
③他者や地域社会との交流に積極的な人	③農業分野を将来の職と志す人
	④礼儀をわきまえ、コミュニケーションを積極的にとれる人

カリキュラム・ポリシー

基礎科目と基礎実習の習得

1
年
前
期

達成目標

- ① 栽培理論を中心とした基礎科目を理解する。
- ② 総合実習を通し、農作業の基礎を身に付ける。
- ③ 栽培実習・インターンで現場作業を理解する。
- ④ 農業を経営からアプローチ、経営学の基礎を身に付ける。
- ⑤ (放送大学) 教養学士取得に向け、確実な単位取得を目指す。

主な履修科目	履修内容
農業基礎論	農業学習の根幹。高度な内容以外の判断は基本的に学生自身が行えることを目指す。
農業基礎総合実習	野菜栽培を中心に体験的、探求的な学習を通し、基礎的な知識と技術を習得。
水稲・果樹・野菜栽培実習	外部提携農家の指導を仰ぎながら、現場実践力の基礎を身に付ける。
農業経営	農業業界全体を俯瞰するために必要な様々な組織の存在を理解する。
耳から学ぶ英語	「聞」に焦点を当てた内容、英語を聞き取る力を上げる。(放送大学科目)

栽培技術の基礎固めと2年次への準備

1
年
後
期

達成目標

- ① 栽培理論を深め、技術と共に2年次以降へに足がかりとする。
- ② 総合実習・栽培実習を通し、栽培技術の基礎や現場実践力をさらに高め基礎固めを行う。
- ③ 資格合格を目指す。(農業技術検定、簿記能力検定、Excel検定、社会人常識マナー検定)
- ④ 2年次プロジェクト実習に向けた準備。
- ⑤ (放送大学) 教養学士取得に向け、確実な単位取得を目指す。

主な履修科目	履修内容
野菜/作物栽培学	前期より引き続き履修、作物別に焦点を当て栽培理論を身に付ける。
水稲・果樹・野菜栽培実習	外部提携農家の指導を仰ぎながら、現場実践力の基礎を身に付ける。
各種試験対策	概ね2週間前より実施。当該資格に関連する科目とリンクさせ合格を目指す。
アグリビジネス論	農業関連産業を統合的に把握する視点を身に付け、実際に経営計画作りのシュミレーションを行う。
色と形を探究する	「色」と「形」に多角度からアプローチ。色と形の持つ意味を解き明かしていく。

農業への探求心の向上と栽培知識・技術の応用

2
年
前
期

達成目標

- ① 1年次で身に付けた基礎知識・技術を応用した実習の取り組み
- ② 通年（5～11月）の現場実習で農業現場の実際を知る。
- ③ 経営知識のさらなる向上。
- ④ 農産物の加工技術を身に付ける。
- ⑤ （放送大学）教養学士取得に向け、確実な単位取得を目指す。

主な履修科目	履修内容
プロジェクト実習	野菜栽培をとおし、模擬農家として品目の検討～栽培～販売を一貫して学生自らが行う。
農業経営体派遣実習/栽培実習	提携農家・農業生産法人で現場経験を積み重ね、栽培技術や経営のノウハウを習得する。
農業法規	農地法などの基本的な考え方から始まり、実務上必要な法知識について学ぶ。
食品加工実習	農業の6次産業化を念頭に、農産物加工の工程を学ぶ。また企画も行う。
遠隔学習のためのパソコン活用	パソコンの活用方法び、システムを活用やプレゼンテーション法を学ぶ

栽培技術×経営知識の完成形を創り出す

2
年
後
期

達成目標

- ① 栽培系実習・科目の集大成と位置付けた実習・授業
- ② 現場感覚の向上
- ③ 経営知識のさらなる向上
- ④ （放送大学）教養学士取得に向け、確実な単位取得を目指す。

主な履修科目	履修内容
プロジェクト実習 I	野菜栽培を通し、模擬農家として品目の検討～栽培～販売を一貫して学生自らが行う。
農業経営体派遣実習/栽培実習	提携農家・農業生産法人で現場経験を積み重ね、栽培技術や経営のノウハウを習得する。
マーケティング	農業におけるマーケティングを主軸として、商品としての農作物の売り方を学ぶ。
グリーンツーリズム論	地域活性の事例を学び、農業を中心とした地域資源を活用した地域活性の手段が考案できることを目指す。
日本語リテラシー	日本語の文章を読むこと・書くことの基本的実践能力を養う。

2年修了時の達成目標

- ① 栽培における一連の作業について自己で判断し実行することができる。（難しい判断除く）
- ② 農業経営の基礎的部分について理解ができています。
- ③ 3年次以降を見据えた準備ができています。
- ④ 大学卒業単位の半数以上を取得している。
- ⑤ 業界を取り巻く状況を理解し、問題意識を持った取り組みができる。

教養科目と食品関連技術の習得

3
年

達成目標

- ① (放送大学) 教養学士になるべく、多くの教養科目の単位を取得する。
- ② 6次産業化を意識した食品加工技術を習得する。
- ③ 進路選択を的確に行えるようになる。
- ④
- ⑤

主な履修科目	履修内容
問題解決の進め方	問題とは何か、発見法、解決法、情報収集・整理、分析の一連の過程を通し解決策を見いだす科学的技法
栄養学	食品に含まれる栄養素を中心に食品と健康について学ぶ。
H A C C P	自己対策『HACCP』を軸に食品の安全に関する行政の取り組みや危機管理について学ぶ。
企業連携実習	外部提携実習先にて食品加工の現場を経験する。新潟市アグリパークを想定。
就職実務	企業設定方法及び就職受験先の探索法。

教養学士の学位及び高度専門士の資格の取得

4
年

達成目標

- ① (放送大学) 教養学士になるべく卒業に必要な教養科目の全単位を前期中に取得し卒業を確実にする。
- ② 農業分野だけでなく食品分野でも活躍できる人材になる。
- ③ 卒業研究を通じて論文作成法やテーマに応じた研究方法を習得する。

主な履修科目	履修内容
フードシステムと日本農業	食料の素材を生産する農業段階と将来世代へのフードシステムについて学ぶ。
プロジェクト実習Ⅱ	技術を要する品目に挑戦、これまでの実習の集大成としてより現場に近い栽培技術を身につける。
食品開発実習	新しい付加価値を付けた食材の加工方法や、新商品開発の提案ができるスキルを習得することを目指す。
卒業研究	農業分野又は食品分野にてテーマを決定し、学年末の発表に向けて取り組む。

ディプロマ・ポリシー

- ① 農業（業界）と作物（栽培技術）を診る能力を身に付ける。
- ② 栽培技術において、工程を理解し高度な判断以外は自己で判断し実行できる能力を身に付ける。
- ③ 他者とのつながりを理解し、協働し課題に取り組むことができる能力を身に付ける。
- ④ 経営感覚を持ち、それに必要な知識を判断し多角的に物事を診る目を身に付ける。
- ⑤ 高度な農業技術を身に付け、その分野で活躍できる人材になる。
- ⑥ 6次産業化を意識した、農業と食品分野幅広く活躍できる人材になる。
- ⑦ 人文・社会・自然の多岐にわたる学問分野を学習することで教養学士としての資質を身に付ける。
- ⑧ 豊かな人間性と感性、幅広い知性と教養、それらを社会に活かすコミュニケーション能力を身に付ける。